# 行事報告

## 高専ー技科大 新技術説明会

発明者による新技術の発表

主催者を代表して挨拶する五十嵐高専機構理事

発明者による新技術の発表

1月17日(月)に独立行政法人科学技術振興機構JSTホールにおいて,「高専ー技科大 新技術説明会」を開催しました。

本説明会は,企業関係者を対象に実用化を展望した技術説明を行い,広く実施企業・共同研究パートナーを募ることを目的としています。今回は材料分野における新技術(未公開出願を含むライセンス可能な特許)の紹介を本学から2件,高専から6件行いました。

プレゼンテーション後には,発表者と企業関係者による個別の技術相談が行われ,今後の産学連携活動のきっかけとなる技術シーズ・企業ニーズの情報交換が行われました。

また,共催しました独立行政法人国立高等専門学校機構,独立行政法人科学技術振興機構の強力なバックアップのもと,当日は,企業関係者から多くの参加があり,延べ受講者295名と,盛況のうちに終了しました。

### 編集後記

今春卒業修了される皆さんの多くは,企業等で仕事をすることになります。したがって,今後の企業戦略を否が応でも考えざるを得なくなります。先が見え難く混沌とした状況ですが,今後の戦略には何が重要なのでしょうか。先日の日刊工業新聞の一面には,「安全対策が競争力の源泉」が載っていました。従来の競争力の源泉と言えば,製品やサービスの価格や品質でした。今後は「安全」が源泉となります。これまでの日本では,安全は当たり前でタダでした。安全に投資することは必ずしも競争力に繋がりませんでした。時代は変化しています。安全を制する企業が圧倒的な優位に立つことになります。卒業修了される皆さんには,安全を意識して社会で活躍していただきたいと思います。

**VOSの由来**　本学のモットーである, Vitality, Originality, Servicesの頭文字をとって, 本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。

VOS NO.162　[平成23年3月号]
編集発行 長岡技術科学大学広報委員会[総務部 総務課]
◎本誌に対するご意見等は下記までお寄せ下さい。
〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1
Tel.0258-47-9209　Fax.0258-47-9000
E-mail：skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp　URL：http://www.nagaokaut.ac.jp/
リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

VOS 長岡技術科学大学 広報 2011 March NO.162
Nagaoka University of Technology

# VOS

VITALITY ORIGINALITY AND SERVICES

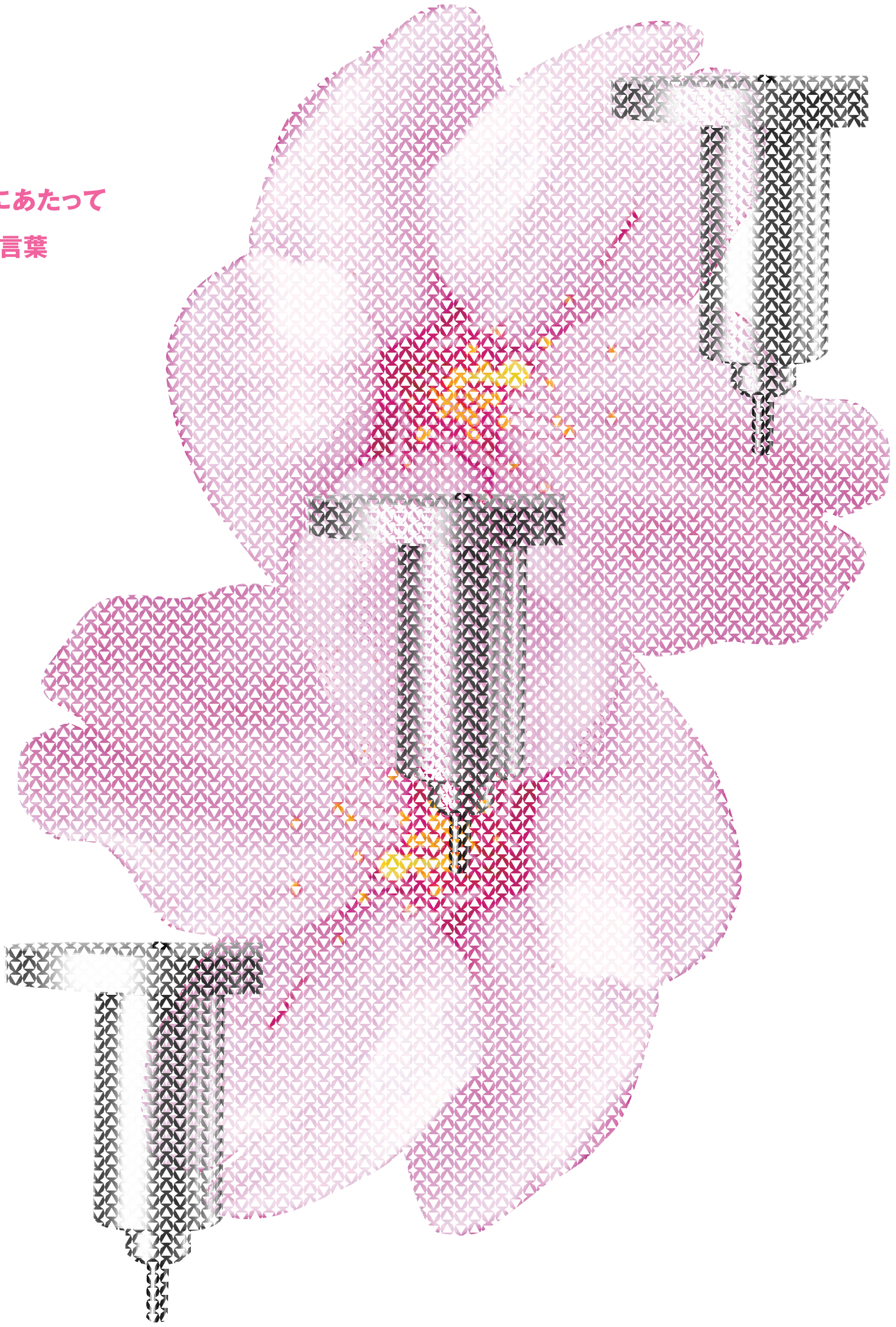
長岡技術科学大学 広報

NO.162
2011.March

特集
## 祝卒業・修了

CONTENTS

02_ 学長告辞
04_ 卒業・修了を祝して
06_ 贈る言葉／卒業・修了にあたって
15_ 退職にあたって／贈る言葉
19_ 技大の樹／トピックス
20_ 行事報告／編集後記



# 学長告辞 MESSAGE FROM THE PRESIDENT

長岡技術科学大学長
**新原 晧一**
KOICHI NIIHARA

## 夢と希望を持って 成長し続けて下さい！

長岡技術科学大学を卒業・修了され，学士，修士，博士の学位を獲得した諸君に心からのお祝いを申し上げます。また，今日まで諸君を長年にわたり慈しみ育ててこられた保護者の皆様に，お礼とともにお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

留学生諸君は，家族と遠く離れ，言葉も習慣や文化も，そして気候も大きく異なるこの長岡の地における生活，厳しい勉学と研究において色々な苦労があったと思います。この環境変化を力強く乗り越えた諸君の長きにわたる努力とチャレンジ精神に敬意を表すとともに，今後もさらに研鑽を積み重ねて，長岡で学んだ「ものづくり技術」の心とそれを支えてきた日本文化に根ざした「人づくり」の心を生かして，力強いリーダーとして世界の技術科学の発展のために尽力されることを強く願っています。

日本は現在，急激な少子化，厳しい経済状況と産業構造の変化に見舞われており，この3月に卒業する全学生の就職内定率は70％（昨年12月現在）以下で，調査が始まった平成8年以降で過去最低だった昨年をさらに下回るとの報告が有ります。また，この2月に日本のGDPは中国に抜かれ世界三位に後退したことも記憶に新しいところです。この様な状況下でも，我が長岡技術科学大学は昨年に引き続き就職を希望する学生のほぼ全員が希望を達成し，今年も日本の全大学の中でナンバーワンの地位を例年通りに維持したと考えています。この素晴らしい成果を本学が得つづけているのは，開学当初からの本学の理念と他大学では不可能な長期の実務訓練の成果が広く産業界等から信頼を得ているからだと思います。本学で学び研究してきた諸君は，自信を持って未来に向けて邁進して頂きたいと思います。

大学は常に未来を視ており，大学での教育の目的は，学生諸君が卒業後も自己の無限の可能性を信じ，夢と希望とチャレンジ精神を持って，持続的に活躍・発展し，社会の中心となる20～30年後に，その能力を最大限に開花させるための基礎を創り上げることを支援する事に有ります。皆さんが努力して学び創り上げてきた，この基礎を真に実のあるものとするために，今後も常に先の先を視る努力を継続する必要が有ります。先の先を見るためには，即ち，加速度的に変化する未来社会で悠々と生きていくためには，日頃からの努力に加え，自分を取り巻く全ての人を愛し嫌いにならない志が重要です。人を嫌いになることは，本来その人から得られるはずの有益な情報や意見を自分から捨て去ることを意味するからです。全ての人を好きになり，嫌いな人を作らない姿勢は，一緒に歩み努力できる大きな人的ネットワークを創ることに繋がります。

また，諸君が多くの方々に尊敬される“かけがえのない人”になるためには，人の成果を妬むことなく，人の素晴らしい結果は率直に認めて賞賛し，自分は自分の道を歩むことが必要です。人と同じことをしては大きな進歩がありません。また自分の無限の可能性を信じ，思い込みで設定してしまう自分の限界を突破する努力が必要です。人間には限界はありません。自己の目標を考える時には，自分の損得のみではなく，諦めようとする気を起さないためにも，より次元の高いものに設定すべきです。ただし，大きな目標を掲げても，日々の活動では，地味で単純な活動を繰り返さなければなりません。自分の夢と現実の間に大きなギャップがあり，思い悩むことがあると思いますが，その時は成功するまで決して諦めない志が必要です。執念で努力を続けることによって，初めてすばらしい結果を得ることができます。それでも問題解決ができない時には，素直に何度でも問題に向き合い，苦しみ抜いて，その問題を潜在意識に浸透させ，その解決法が思いもしない時に閃くように潜在意識下で考え続けることが必要です。私の経験によると，夜通し仕事をし“ぼんやり”している時に，難しい問題を解決するアイディアが閃めくことがあります。また，考え続けて10年以上も後に解決策が見つかったことも有ります。友人や先生方に率直に相談することも大切です。大学で一緒に苦労した友達は勿論のこと，先生方も卒業・修了後も諸君の事を何時も視ています。この様な姿勢で常に前に進むことにより，諸君は“かけがえのない，尊敬される人”に成長すると私は信じます。

私が，学長に就任した日（平成21年9月16日）は，政権が変わった日で，その日を境に国立大学を取り巻く環境は一変し，非常に厳しい状況が続いています。特に文教関連や科学技術に関する予算については，諸君もご存知のように厳しい仕分けが行われました。平成23年度予算に関連した要望活動では，諸君にもパブリックコメントへ積極的に参加してもらったお陰で，国立大学への来年度予算の大幅な減額は避けることができました。しかしながら，日本が直面している急激な少子化や国の経済状況とも関係し，今後，国立大学や国の研究機関の整理統合が計画される可能性も有り本学においても，他の大学や研究機関にはない多様な宝を積極的に内外にアピールする必要性があります。

昨年，本学の先生から教えてもらった言葉に「不進則退」という言葉があります。この言葉を直訳すると「進まざれば，すなわち退く」となりますが，この言葉は，「何事にもこれで成就したとか，やり遂げたと思ってしまえば，もうそこからは後退や衰退しかありません。目標の達成を完成点や到達点にするのではなく，それを通過点に過ぎないと考えて，常に努力を重ねなければならない。」という深い意味のある格言です。また，私からは，諸君に「3つのi（愛）の心」と「全ての人を好きになる愛の心」の2つの言葉を贈りたいと思います。Intuition（閃き），Invention（発見），Innovation（革新）の3つのi（愛）の心は，「困難や失敗の中から革新的な成果を創造する心」です。容易に得られる情報を身につけるだけでは単なる博学でしかなく，この心は養われません。どのような厳しい環境をも，またどのような人をも，自分から好きになろうと努力することで養われる心です。ですから，誰もが持つことができます。この「3つのi（愛）の心」と「全ての人を好きになる愛の心」が，これからのグローバルな社会，言葉をかえると勝ち組が全てを取るデジタル社会において生じる様々な壁と格差を打ち破っていくために最も必要とされる力，すなわち自分の限界にチャレンジし，それを突破する力を育てると私は信じています。

諸君は本日，本学を巣立って行きますが，本学で学び研究し，そして生活したことを終生の誇りとし，自分の財産としてください。そして本学の宝となり，本学を支える一員になっていただきたく思います。最後に，本日，卒業そして修了し社会に羽ばたかれる諸君のことは「誰かが何時も諸君を見守り続けております」，即ち長岡技術科学大学の教職員そして学長は，諸君の活躍はもちろんのこと，重大な局面に遭った時でも何時も諸君を見守り続けています。それを信じて，常に未来を見続け，自分の力を信じてチャレンジし，努力を積み重ねて大きな成功を収めてください。本日は，卒業そして修了おめでとうございます。

理事・副学長
（教育研究，中期目標・計画，将来構想担当）
武藤 睦治
YOSHIHARU MUTOH

## 卒業・修了を祝して

皆さん，卒業・修了誠におめでとうございます。ここに至る道は決して平坦でなく，さまざまな問題を乗り越えてこられたものと思います。その努力に敬意を表します。

さて，皆さんの青春時代は，バブル崩壊後の景気減退，低成長の社会の中にありました。ピーター・ドラッカーは1990年代初めに，先進国の少子高齢化，低成長の問題を指摘しました。それに対応してこなかった日本は，今まさにその問題に直面しています。日本は高度成長期に世界最高水準の高生産性，高効率，低コストを実現し世界第２の経済大国となりました。しかし，バブル崩壊後，景気に波はあるものの基本的に低成長の中にあります。現在も多くの企業が，競争に負けないあるいは勝ち抜くために，さらに高生産性，高効率化，低コスト化のための最大限の努力を続けています。しかし，公共投資が内需拡大や景気回復につながらなくなったように，そのような努力によって収益を上げ経済成長を遂げることには限界があるように見えます。ケインズは1930年代に「100年後には，今のように経済成長を求める時代は終わっている。」と言っていたそうです。まさに卓見と思います。経済成長という価値観が失われた低成長時代には，それに適した価値観とそれに基づく社会・経済の変革が求められているのではないかと思います。

本学は第２期中期目標・計画（2010-2015の６年間）において，「人間・環境に配慮した持続的社会の構築に貢献する教育・研究を行う」ことを謳っています。低成長時代は，堺屋太一氏は「知価」と言っていますが，人々はものを買うためではなく，幸せを得るために対価を支払う時代になると言われています。もの作りにおいても「高機能なもの」そのものではなくそれを通して得られる満足や幸せをどれだけ提供できるかが重要になるのかもしれません。

本学の初代学長は，大学が設立され学生を受け入れ始めた32年前に本学のモットーとしてVOSを掲げられました。活力，創造力，サービス（世のための奉仕）の頭文字です。「世のための奉仕」は「人々の幸福のための貢献」と言い換えることができます。これからの低成長時代にこそVOSの精神はさらに輝きを増すものであると思います。VOSの精神に基づいた，皆さんのこれからの社会でのご活躍を期待しています。

長岡市長
森 民夫
TAMIO MORI

## 卒業・修了を迎え 新たな世界へ踏み出す皆さんへ

長岡技術科学大学に学び，卒業，修了を迎えられた皆さん，誠におめでとうございます。限りない可能性を手に，新たな世界へ踏み出す皆さんに，心よりお祝いを申し上げます。

日本は現在，急激な少子高齢化や長引く景気の低迷，そして刻々と移り変わる国際情勢等を原因とする変革の時代を迎えています。

長岡市でも，この変革の時代に対応するため，「子育ての駅」や「市民防災公園」そしてシティホールプラザ「アオーレ長岡」など，独自の「長岡モデル」によるまちづくりを，市民の皆さんと協働で進めているところです。

私は，先の見えない混沌とした時代だからこそ，長岡で学生時代を過ごした皆さんには，自信と誇りを持って，自分の信じる道を切り開いてほしいと願います。

皆さんは，長岡技術科学大学の教育理念「活力，独創力，奉仕の心」の3つを「VOSの精神」として体得されました。長岡のまちは，この精神を体現して世界で活躍した先人を多数輩出しています。坂本龍馬の海援隊に参加し，長岡出身者として最初に米国に留学して造船技術を日本に伝えたといわれる白峰駿馬。戊辰戦争後，病院・銀行，そして新産業を興して，復興の礎を築いた三島億二郎。明治初期，市民力で信濃川に長生橋を架けた広江椿在門。大正時代に単身渡米し，コロンビア大学で教壇に立ち，ベストセラー「武士の娘」を出版して日本文化を欧米に広めた杉本鉞子。そして，昭和初期に駐米大使として，日米の平和の架け橋を務めた斎藤博などです。

長岡の風土と人に親しみながら勉学・研究を重ねた皆さんは，郷土の先人の魂も受け継いでいるのです。この先人の生き方や業績は，皆さんが不安や困難に直面した際に，夢を成し遂げようという前向きな気持ちにしてくれる希望の種になると確信しています。

長岡市では今，市民が長岡の魅力を再発見し，それを全国に発信することで，新たな産業や文化の創造に繋げるシティプロモーションを進めています。この取り組みには，来年の春のワシントンD.C.の全米桜まつり100周年記念事業で長岡花火を打上げて欲しいという，全米桜まつり協会からの招請も含まれています。来春には，おそらく全国ニュースが伝えるであろうこの桜まつりの話題が皆さんにも届き，長岡で過した日々を懐かしく思い起こしていただけることと期待しています。長岡市は，米百俵のまちで研鑽を積まれた皆さんを市民と共にいつまでも応援しています。

## 贈る言葉［系長より］

機械系長
東 信彦
NOBUHIKO AZUMA

### 「未知の世界へ」

卒業・修了おめでとうございます。社会人として羽ばたかれる皆さんに心からお祝い申し上げます。皆さんはこの長岡技術科学大学でいろいろなことを学び，また多くの出会いがあったことと思います。皆さんのこれからの人生で，この長岡での学習や経験，知人・友人が大きな糧となるでしょう。

社会を見れば，今後益々困難で変化の激しい時代になっていくでしょう。21世紀に入って我々を取り巻く環境は加速度的に変化してきています。グローバル化は益々スピードアップしてきています。これは環境問題においても，産業・経済においても然りです。日本はGDPでは中国に追い抜かれ，これまで得意であった科学技術分野で中国や韓国に追い越されかけています。皆さんが社会をリードする30年後はどうなっているでしょうか?日本は科学技術によって国を立てていくしか道はありません。長岡技術科学大学で学ばれた皆さんはその担い手として社会から大きく期待されています。これからのグローバル社会の中で日本が遅れを取らないで生き抜いていくには「国際感覚」を養う他ありません。日本人は昔からいまだに島国根性が強い民族です。政治・外交，産業すべてにおいて国際感覚の無さが現在の衰退につながっています。皆さんにはどんどん海外に出て行って国際人となり，多くの価値観や思考，教養，文化を涵養してください。真の国際人になるためには日本の歴史・文化をよく理解していることが重要です。これがグローバル社会の中で「先を見通す力」となり，日本が30年後に輝いている国として生き残る力となります。皆さんの今後の活躍を大いに期待しています。

## 卒業・修了にあたって

機械創造工学専攻2年
(富山高専 出身)
野崎 要
KANAME NOZAKI

### おもひでぽろぽろ白高讃歌

今頃は無事修了でき，4月からの社会人生活の準備をしていることを信じて，これまでの学生生活を振り返ろうと思います。

その前にまずは，これまで色々と支えて頂いた方々に感謝を述べたいと思います。面倒臭がりで大した取り柄のない自分がここまでやってこられたのは，周りの方々のおかげであると確信しております。ありがとうございました。

さて，長岡に来た当初の学生生活はなんだかんだと楽ではありませんでした。自動車のない生活はつらすぎます。しかし実務訓練先で，自動車の衝突試験に立ち会った際は，改めてその危険性を実感しました。

大学院に進学してからは生活にゆとりができ，自動車より危険なバイクに乗り始めました。研究室にいる時間が長くなるにつれて，先輩・同級生・後輩・名誉教授に非常に個性的な人物が集まっていることに気がつき，日々の生活が飽きのないものでした。そのことは，高橋勉研究室のHPを見ていただければわかるかもしれません。本分である研究は，尊敬できる次期教授の下にいながら，十分な成果を出せたかはわかりませんが，大学院に進んだことで社会に出る前に色々な経験ができたように思います。

研究室の精鋭達



## 贈る言葉［系長より］

電気系長
大石 潔
KIYOSHI OHISHI

### 思いをかたちに!

ご卒業，ご修了，おめでとうございます。

世の中ではタイガーマスク現象（運動）というものがおこっています。

これは昨年のクリスマスに『タイガーマスク』の主人公伊達直人を名乗る人物から，ある児童養護施設にランドセルが贈られたのをきっかけに，全国の施設などに匿名の寄附があいついで寄せられている現象です。

あまりの広がりに一過性に終わるかもしれないなどと危ぶむ声もありますが，自分の思いを形にして実行したたくさんの「伊達直人」がいたことを私はうれしく思います。

さて，みなさんは厳しい状況の中，社会に旅立たれます。社会には閉塞感とあきらめムードが漂っています。政治は混迷し，個人が動いたところでどうにもならないと思いたくなります。しかし，本当にそうでしょうか。社会を動かすのはやはり私たち一人一人の個人の力です。

みなさん，おりないでください。あきらめないでください。仕事場で家庭で地域社会で自分の思いを形にして実行してください。そして社会に灯をともしてください。

なぜなら，みなさんがこの長岡技術科学大学で学ばれた「工学」は究極の所，自分の頭の中にあるアイディアを実現することにより人々を幸福にする学問なのですから。

## 卒業・修了にあたって

電気電子情報工学専攻2年
(タイ出身，大阪電子専門学校 出身)
タンチサッタヤー ピッティ
TANGCHITSATTAYA PITTI

### 4年間を振り返って

長岡技術科学大学での学生生活もあっという間に4年間が過ぎてしまいました。振り返ってみると，色々な出来ことがありました。まず初めに，私は専門学校から学部3年生に編入する者で，認められる単位が少なかったため，必死にできるだけたくさんの単位を取得しました。その時，同期の皆は，過去問題とか，レポートの書き方などを親切に教えてくれて，本当に助かりました。

そして，NUTISAのスタッフになって，様々な国や人を知り，触れ合うことで，様々な生き方，価値観，人間関係などを学びました。人は一人では生きていけないものだから，自分と出会った人のことを大切にしたいと思います。

私にとってこの4年間は，良い仲間に恵まれ，楽しいことも，悲しいこともありましたが，大変充実した大学生活でした。やっぱり友情は楽しさを倍にし，悲しさを半分にしてくれると感じます。

最後になりましたが，一緒に学生生活を送る友人，指導して下さった先生や研究室のメンバー，様々な場面から支えて下さった方々に心から感謝しております。私はこれから社会人になって新たなスタートを切ります。皆様との思い出を忘れることなく，また一つ前に進んでいこうと思います。4年間，本当にありがとうございました。

2010年　研究室旅行…いざ那須へ

## 贈る言葉［系長より］

物質・材料系長
塩見 友雄
TOMOO SHIOMI

### 諸君への期待

卒業，修了おめでとうございます。

諸君は在学中に，専門知識や研究の進め方など多くのことを学んだことと思います。入学時と比べると一段と輝いた顔になっていることでしょう。また，多くの人と接し，知人，友人を得たことと思います。学生時代に得た経験や友人は一生忘れられず，貴重なものとなることでしょう。

今，世界的規模で社会が変化していく時代に入っております。経済も好不況を繰り返しながら新たな発展をしていくでしょう。このような時にこそ諸君のような若い世代の活躍が期待されます。循環を繰り返しながらも社会が発展し豊かになっていく基礎は，技術者・研究者の努力にあると思います。諸君はこれから様々な状況に身を置くことでしょう。それを乗り越えていくためには不断の努力が必要です。一度に乗り越えられなくても，一つの山に登ればさらに高い山に登ることは一から登ることに比べれば容易です。高い山に登れば一層広い範囲が見渡されます。既に諸君は卒業・修了という一つの山に登りました。

諸君には多くの可能性があります。肉体的にも精神的にも頑張りがきく若いうちにできるだけのことをして下さい。時間は思いのほか早く経つものです。諸君の幸せと輝かしい未来を心から期待します。

## 卒業・修了にあたって

材料開発工学専攻２年
（八代高専（現 熊本高専）出身 ）
上村 恭子
KYOUKO UEMURA

### 修了にあたって

入学して４年，あっという間だったような気がします。高専４年で就職か進学か悩んでいた頃，小林高臣先生の大学案内を聞いて進学を決めたことを思い出します。初めは不慣れな生活で大変でしたが，豪雪地帯で生活したことはよい経験になったと思っています。

学生生活で最も記憶に残っているのは，やはり実務訓練です。私は中国河南省にある鄭州大学で，主に日本語のTAをして来ました。日本と全く違う文化・生活環境で生活し，中国の学生と触れ合う中で自ら行動することの大切さを学び，中国文化への理解が深まるとともに考え方や価値観が変わりました。また，お年寄りに歴史的な質問をされたものの上手く答えられず，歴史を知らないことを申し訳なく思ったことを覚えています。

研究では，アメリカのテキサス州エルパソで開催されたACSの学会でポスター発表したことが思い出に残っています。私は英語が苦手なのですが，一生懸命ポスターの説明をして理解してもらい，嬉しく感じました。生物系から材料系に専門を変えたことで苦労しましたが，今では専門を変えて良かったと感じています。

４月には社会人となり学生ではなくなりますが，学生時代に得た知識や経験を十二分に活かし，これからも成長していきたいと思います。

日本語授業の学生や先生と食事に行ったときの写真です。

## 贈る言葉［系長より］

環境・建設系長
丸山 久一
KYUICHI MARUYAMA

### 餞（はなむけ）

卒業，修了おめでとうございます。

建設工学や環境システム工学に関係する産業界への風当たりは数年前から特に厳しくなり，道路や橋梁，港湾・空港等の社会基盤の整備に関わる国の予算も大幅に削減されている社会状況で，諸君はその荒波に乗り出します。先行きは必ずしもはっきりとは見えておらず，希望の芽も小さいように感じるかもしれませんが，若い諸君に対する周囲の期待は非常に大きいです。人類の歴史を振り返ってみると，人々の要望に応えて社会基盤を整備してきました。新たな社会基盤により，人々の生活様式が変化し，価値観が変化して社会が変わってきています。ある瞬間を見た場合，もう新たな社会基盤の整備は不要と思える時もあるかもしれませんが，歴史はそれに否と答えています。整備内容は，勿論，科学，技術の進歩に大きく依存していて，科学，技術の継続的な発展なしには新たな社会の形成はできません。その科学，技術を担えるのは若い諸君しかいないのです。短視眼的な周囲の声に煩わされることなく，一人一人の未来を切り開いていってください。本学での生活でそのための準備はできています。これから先の可能性を実際の力に変えるのは，諸君の夢の大きさと思いの強さです。

ボンボヤージュ。

## 卒業・修了にあたって

建設工学課程４年
（和歌山高専 出身 ）
山中 悠資
YUSUKE YAMANAKA

### 卒業にあたって

長岡での大学生活はあっという間に過ぎてしまいました。私の学年で和歌山高専から長岡技大に編入してきた学生は他にいなかったので，入学当初は友達ができるかなと不安に思うこともありました。しかし，入学してすぐに行われた課程別合宿研修で，他高専出身の学生とも1年生から在籍している学生ともすぐに仲良くなることができました。

大学生活は大変だったように思います。多くの講義や試験があり，学業に関しては本当に大変でした。わからないところがあれば友人や大学院の先輩，先生方に助けてもらい，ギリギリ試験を乗り越えることができました。また，いくつかの学会にも参加し，その時は緊張していて何を話したのかもあまり覚えていませんが，貴重な経験ができて本当に良かったと思います。

学業以外で一番印象に残っていることが，クラスの仲間と球技大会に参加したことです。本番のために空いている時間を見つけてはグラウンドに行ってみんなで何時間も練習しました。優勝することはできませんでしたが，みんな一丸となって戦ったこの球技大会は私の一生の思い出です。

最後に，長岡に来て出会った友人，指導してくださった大学院の先輩や先生方，本当にありがとうございました。4月からは新天地で頑張ります!

## 贈る言葉［系長より］

### 高い志を抱いて

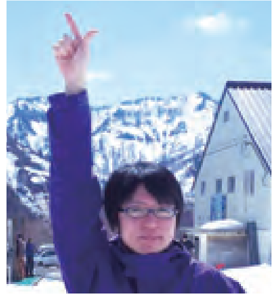
生物系長
古川 清
KIYOSHI FURUKAWA

大学を卒業あるいは大学院を修了されるにあたり，一言お祝いを申し上げます。私が大学院を修了して社会へでたのは昭和54年，日本は経済的に安定していた時代で，それゆえただ一心に高い志を抱いてアメリカ留学の途につきました。ところで今，皆さんはどんな気持ちで社会へ旅立つのでしょうか。社会や経済の不安定さもあり，先行きが見え難い時代です。不安が先行するかもしれませんが，どんな中でも自分の道を見つけて進んで欲しいものです。

司馬遼太郎著の「坂の上の雲」が長い風雪を経てようやくドラマ化され，一昨年末から3部作の第1部と第2部がテレビで放映されました。明治に生きた人達は時代の目標が鮮烈だったため，一朶の雲を追いやすく，坂を上って行ったものだと思います。それにしてもそれを可能にしたものは，この時代に登場した人物の強烈な個性と高い志だったと思います。困難な時こそそれを乗り越えるために個々の個性と高い志が必要で，それは歴史が証明をしています。昨年も，鈴木章博士と根岸英一博士がノーベル化学賞を受賞されました。これはお二人の先生が基礎研究を一流の研究室でじっくりと育てあげられた成果で，それは高い志があって初めて成し遂げられたものです。皆さんも長岡技術科学大学で学んだ個性豊かな技学を礎に，志を高く抱いて社会へ巣立っていただけたらと願っています。

## 卒業・修了にあたって

### 楽しかった長岡技術科学大学



生物機能工学専攻２年
（鶴岡高専　出身）
伊藤 恭兵
KYOHEI ITO

VOS執筆依頼を受け，大学生活を振り返ってみました。そうすると，とても充実した生活を送ったなと思うとともに，その生活は多くの方々のおかげで感謝しなければという気持ちになりました。

学部では吹奏楽サークルに入り浸り，学科と年齢を超えて一緒に演奏をしたり，ごはん会をしたり，かけがえのない時間を過ごすことができました。また新潟の他大学の方々と演奏したり，先生に指揮をしていただいたりと，たくさんの方に支えられていました。

実務訓練では神戸研究所未来ICT研究センターの方々にお世話になりました。国立の研究所の雰囲気と高い技術に触れることができ，素晴らしい経験をするとともに私自身新しい技術を身につけることができました。

院生になってからは研究室メンバーと過ごすことがほとんどで，研究するときはもちろん休日に遊ぶときも一緒でした。それに指導してくださった先生には本当に感謝しております。

技大に入学してから，変な人やすごい人やらたくさんの出会いがあり，それらが今の自分をつくっているのだと感じております。友人たち，実務訓練でお世話になった方々，研究室の先生，研究室のメンバー，みんなに感謝です。長岡での大学生活を糧に，新生活を頑張っていきます。本当にありがとうございました。

2010年9月3日中間発表後の集合写真

## 贈る言葉［系長より］

### 1％の可能性

経営情報系系長
福村 好美
YOSHIMI FUKUMURA

ご卒業・ご修了，おめでとうございます。経営情報系はじめ長岡技術科学大学の卒業生・修了生の皆さんが，社会人あるいは技術者・研究者としての新しい門出を迎えられることに対して，心よりお祝いを申し上げます。現代は，知識基盤社会（知識あるいは情報が，政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域で基盤となる社会）だとも称されるように，知識・スキルが最も重要な資産のひとつになっております。この長岡技術科学大学において修得された工学的知見と探究心が，今後の活動に役立ち，さらには社会の進歩に貢献することを期待しております。ただ，研究開発あるいはビジネスにおいて，そのプロセスでは失敗あるいは無駄となってしまう行動を経験することが多々あると思います。成功を勝ちえた研究者・経営者の体験談などからも，100の内の99は失敗あるいは無駄であった，という話を聞くことがあります。失敗しても挫けることなく，精神を奮い立たせて挑戦を続けることで，最終的には成功を得ることができるということでしょう。ゴルフでいえばリカバリショット，バスケットボールではリバウンドが非常に重要だと言えます。

皆さんの若い活力と豊かな創造力で，既存の枠組みを変革して，人々と地球にやさしい社会を構築してほしいと思います。

## 卒業・修了にあたって

### 大学生活を振り返って

経営情報システム工学課程４年
（呉高専 出身）
栗原 宏昌
HIROMASA KURIHARA

２年前，長岡に来てあっという間に時が過ぎてしまいました。私は高専の電気情報工学科から経営情報系の編入ということもあり，編入前は期待と不安でいっぱいでした。しかし，講義やゼミなど，様々なことを学んでいくうちに不安よりも新しいことを学ぶ楽しさのほうが上回っていきました。

学生生活は，楽しいこと，辛いこと，勉強になったことなど本当に様々な経験をさせてもらいました。特に学業以外の経験が印象に残っています。アルバイトでは，ミスが絶対に許されないといった緊張感のある仕事をさせてもらい責任の重さを実感しました。また，サークル活動では今まで経験してこなかった役職に任命され，毎日が不安でした。上手くこなせない役職仕事で周りの方に迷惑をかけ，何度も辞めようと考えました。しかしそんな時，支えてくれたのは周りのメンバーでした。この支えがなければ最後までやり抜くことができなかったと思います。このように未経験の事に挑戦し，諦めなかった事は，自分にとって大きなプラスになったと感じています。

最後になりましたが，指導して下さった先生，支えてくれた友人や先輩方，また家族には心から感謝しております。これからは長岡での経験を糧にし，頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

学生生活最後の試合で準優勝！！

## 贈る言葉［系長より］

### 日本の安全をリードする担い手となった皆さんへ

システム安全系長
三上 喜貴
YOSHIKI MIKAMI

皆さん，修了まことにおめでとうございます。仕事を抱えながら，週末や帰宅後の疲れきった時間を勉学や課題レポートの作成にあて，2年間にわたってたゆまぬ努力を継続された皆さんに心から敬意を表したいと思います。

システム安全専攻が専門職大学院として発足して5年，修了生としては皆さんが4期生になります。機械安全コースの時代から合計すると，80名余りの安全専門家が本学大学院を巣立たれたことになります。修了生の皆さんは，日本における安全安心社会の創造にあたって，それぞれの分野のリーダとなられることと思います。

昨年末には同窓会も結成され，業種を超えた修了生のネットワークもますます活発になりつつあります。

1期生の皆さんが修了のときに残した言葉に「安全に卒業なし」という名文句があります。安全の専門家として，また，勤務される職場での指導者として，今後もたゆまぬ新知識の吸収，後輩の指導に当たられ，日本の安全を牽引してください。皆さんのご活躍を心より期待しております。

## 卒業・修了にあたって

### 2年間を振り返って

システム安全専攻2年(社会人)
社団法人中越防災安全推進機構(新潟県長岡市)
稲垣 文彦
FUMIHIRO INAGAKI

私が勤務する㈳中越防災安全推進機構では，中越地震をはじめとして豪雨，豪雪災害の災害記録や研究成果の収集，調査研究の充実，成果の社会への普及等を通して，新潟県内はもとより全国における安全・安心な地域社会づくりを推進しております。

さて，私は文系学部出身者です。そんな私が自然災害にかかわるなかで，「安全」に興味をもち，一念発起して本専攻に飛び込みました。はじめて受講した時の衝撃的な記憶は今でも鮮明に残っています。「安全はシステムで作り上げていくもの」という毅然とした考えは，安全を精神論で捉えていた私にとって刺激的なものでした。

その後は，機械や電気の基礎的な知識不足から苦労はしましたが，基礎から，体系的に，そして時には世界の最先端の話題を挟みながら丁寧にご指導いただきました先生方と広い業種から集まってきた諸先輩，同級生に支えていただき，無事修了することができました。この場を借りてあらためて皆様に感謝を申し上げます。

「リスク社会」といわれて久しい昨今，未だ社会を震撼とさせる事故や災害が絶えません。この忌まわしい事故や災害を克服するためには文理・現研融合が欠かせません。その意味では，もしかしたら私のようなものが役に立つのかもしれません。本学で育んだ考察力と誇りを胸に，安全・安心な社会の創造に微力ながらも寄与していきたいと考えます。

宮崎県口蹄疫被害調査



## 贈る言葉［系長より］

### 人生，「塞翁が馬」

教育開発系長
稲垣 文雄
INAGAKI FUMIO

昔，中国北方の辺境に住む老人(塞翁)の馬が隣国に逃げてしまった。損をしたと落胆していると，その馬が名馬を連れて帰ってきた。思わぬ得をしたと思っていると，息子がその名馬に乗って落馬して足を折ってしまった。不運を嘆いていると，戦乱が起き，歩行が不自由なために息子は兵役を免れたという，よく知られた中国の故事成語です。

今，日本では，景気低迷・就職難の時代だと言われています。こんな氷河期に巡り合わせて自分は運が悪い，と思っている方もいるかもしれません。しかし，短期的な展望で運不運はわかりません。好景気による大量採用時代に広き門から企業に入っても，視点を変えれば，同期の競争相手がたくさんいるということです。いずれシビアーなサバイバルゲームに直面するでしょう。人間は，生まれる時代を選べない以上，他のよき時代をうらやんでもしかたありません。しかしそれは，諦めの人生を歩めということではありません。状況はどうであれ，人生を切り拓くのは自分の力なのだ，と思い極めれば，今自分は何をすべきなのか，おのずと道は見えてくるはずです。世の荒波に帆を上げて乗り出す皆さんに幸あれと，心より声援を送ります。

注：稲垣文雄氏は姓・名を逆さまにしない主義を実践しているため，ローマ字表記を姓・名の順にしてあります

## 卒業・修了にあたって

### 大学生活を振り返って

生物統合工学専攻 3 年
(県立栃尾高校 出身)
荒木 直人
NAOTO ARAKI

修士課程から生物系の環境微生物工学研究室で微生物学と遺伝子工学に関して勉強してきました。身一つで研究室に飛び込んだ入学当時は，何が分からないのかが分からないくらい未熟者でした。こうしてここまでやれたのは，先生方が叱咤激励を与えながら長い目で育てて下さったおかげです。感謝。また研究生活は楽しさに加えてつらいことも多く，滅入ってしまいそうになりました。しかし研究室のメンバーと談笑をすることで，前向きな気持ちになり，よしがんばろうと次の一歩を踏み出し続けることができました。研究室には個性豊かな人が多く，笑いのネタに事欠かず助かりました。みんなありがとう。

博士課程では，学生とはいえども一研究者として責任を持って研究に取り組まなければなりません。そういう意味で，ただ実験を行うだけでなく，様々な実験結果を紡いで一つの成果にまで高め，投稿論文として発表するまでの作業はかけがえの無い経験となりました。ただしこれも私一人の力では達成できませんでした。お正月返上でつきあって下さった福田先生にあらためて感謝します。今後は大学院で学んできたことを糧にし，深みのある研究ができたらいいなと思っています。

国際学会でカナダ・トロントへ行きました（背景はロイヤルオンタリオ博物館内の恐竜の化石）

# 贈る言葉

## 留学生の母親役として

むつみ会会長
**石山 文枝**
FUMIE ISHIYAMA

むつみ相談室のある建物が耐震工事を終え，国際交流共有ラウンジとして一新し，明るくなつた部屋で活動出来るようになり，一年が経とうとしています。私たちがボランティアとして，留学生の生活支援等に関わる様になり23年目を迎えます。

毎週水曜日の午後，私たちは季節の果物，甘い茶菓，飲み物を用意し，留学生が一時の時間でも安らいだり，リフレッシュしたりできればと願い足を運びます。留学生も時間を作って訪れてくれます。留学生同志，時に日本人学生も訪れ，学業，日本文化，雪国の生活，花火，母国の事など話題がつきません。日本語の練習の場でもありますが，会話の中から日常生活の不自由さが読み取られ，布団や衣類，暖房器具の提供に到る事もあります。

母国を離れ初めての一人暮しの学生，長岡という雪のある生活への期待と不安，寒さと孤独との闘いなど，厳しい環境の中で学業を貫く学生たちの生活に，バザー，座禅，ハイキング，バス旅行，外国人による日本語スピーチコンテストなど，これらの行事が少しでも楽しい思い出に繋がることを願い，多くの留学生と今年も関わる事が出来ました。雪の生活が，未来に繋がる留学生たちの夢への土台になれば，母親役の私達も幸いです。

御卒業される皆様の益々の御活躍を期待しております。

## 卒業おめでとうございます

同窓会会長
新潟県立塩沢商工高校教諭
**磯部 広信**
HIRONOBU ISOBE

卒業・修了される皆さん，おめでとうございます。同窓会を代表して心からお祝いを申し上げます。そして同時に，長岡技術科学大学同窓会の正会員になられたことにも心からお喜び申し上げます。

既にご存知のように，本学同窓会員は，日本国内にとどまらず，世界の第一線で活躍しています。皆さんも，歴史ある本学の同窓生として，各界でご活躍されますよう期待しております。

さて，最近では，色々な理由で，新入社員の出身地や出身大学を職場に事前に明かさない企業が増えていると聞きます。先輩社員としては，同郷者や後輩がすぐにわからず，話の端緒が見つけにくいという声が多く聞かれます。

そこで，皆さんの「VOS」を発揮するチャンスです。自ら積極的に交流をはかり，情報通（噂好きではなく）になり，周囲の人から「気になる」存在になってください。円滑な人間関係は仕事の幅につながります。「他人との交流を好まない若者」という言葉とは無縁でいてほしいと思います。

皆さんは，世界に名だたる先生方に師事し，充実した研究施設，頼もしい先輩や友人，暖かい地域の方々，家族の協力･･･，という素晴らしい環境に恵まれながら学生生活を送ることができました。努力を重ねて得た研究成果も，周囲の協力があってこそ。それを肝に銘じ，同じように誰かを支えられるよう，自分をさらに磨き続けてください。

また，様々な苦労をして進路を決定されたことと思います。せっかく手にした進路，失敗に怖じけず，楽しんで，思い切り実力を発揮してください。技大での経験は何よりの自信になるでしょう。

皆さんの今後の人生が充実したものになりますよう，心よりお祈り申し上げます。

# 退職にあたって

## 幸せだった研究生活

2009年12月 重慶交通大学との協定調印式 唐伯明学長は元本学助教授

環境・建設系 教授
**丸山 暉彦**
TERUHIKO MARUYAMA

私は開学したばかりの1978年4月に着任しました。私の専門である舗装工学が土木の中で一般的でなかったことと，助手であったために設備も研究費もなく苦労しました。それでも独立した研究室として存在を認めていただいていたことが，その後の研究発展につながっています。当初は研究成果があがらず，鳥居邦夫先生や電気系の吉川昭吉郎先生から橋梁の騒音振動対策に関するテーマを与えていただいたりしていました。。1986年に，ある道路会社から，道路工事以外の新たな仕事について相談があり，非破壊試験機を使用した道路診断と補修を組み合わせた医療のような仕事を提案したところ，技術開発センタープロジェクトになり，多くの成果をあげることができました。青森から鹿児島まで全県200箇所以上の調査をして，舗装の健全度と修繕方法に関する報告書を各県庁に提出し説明しましたから，本学の名前をPRすることで貢献できたと思います。また，現在では標準舗装になっているポーラス舗装に関する研究は1988年から開始し，1990年から技術開発センタープロジェクトとして成果をあげることができたものです。舗装というマイナーな分野で，思う存分仕事ができたこと，多くの方々からご協力，ご声援をいただいたことをありがたく思います。本学教職員の中で，一番幸せな仕事ができたものであろうと自覚しています。他と同じことはしないという本学の精神にも助けられました。

## 贈る言葉／丸山先生へ

### 別れは再会のはじまり，お世話になりました

環境・建設系・准教授（昭和62年修了）
**高橋 修**
OSAMU TAKAHASHI

「ついに丸山暉彦先生が定年退職を迎えてしまう」というのが私の率直な気持ちであります。私は本学のOBで，現在の立場での支援のみならず，学生時代も多くの面でお世話になりました。長年にわたり熱心にご指導いただき，たいへんありがとうございました。

丸山暉彦先生は昭和53年（1978）4月1日付けで本学に奉職され，実に33年という長い間，本学の教育，研究，および社会貢献に尽力されてきました。本学の開学が昭和51年で，第1回の入学式が昭和53年でありましたから，正に本学の黎明期を支えた数少ない教員の一人ということになります。十分な施設，機器がないなかで，本学の基本理念に基づいて教育活動，研究活動を実践していくには，多くの困難と苦労があったものと推察されます。

丸山暉彦先生が立ち上げた交通工学研究室は，わが国の大学では数少ない道路舗装を検討対象とする研究室で，在職期間に多くの卒業生，修了生を道路業界に輩出しています。昭和61年に博士課程が本学に設置され，先生が定年を迎えるまでに，計40名の課程博士，論文博士が世に出ており，そのほとんどが道路関係に特化した研究テーマでありました。

以上のように，丸山暉彦先生からは長きにわたって本学の運営とわが国の道路関係の研究，技術開発を支えていただきました。本学OBとして，また職場の部下として，丸山暉彦先生への感謝の気持ちでいっぱいです。今後のご健康とご活躍を心よりお祈りいたします。

# 退職にあたって

## 退職にあたって

電気系・教授
島田 正治
SHOJI SHIMADA

昭和45年4月に電々公社研究所に入り，24年間研究一筋?後，平成6年4月に本学に参りました。当初，ディジタル信号処理とディジタル電子回路を担当し，先輩の先生から音響工学を教えるように指示され，大学時代の音響工学を再度勉強し，どの様な内容にしたら学生諸君は判ってくれるのか?が今も脳裏に残っています。その後の研究内容は音響分野のディジタル信号処理と音像定位知覚に移行しました。人間を対象とする脳内の音知覚と嗜好に関する研究分野は前人未踏で楽しく，かつ理論や数学では解明できない研究の連続でした。研究もマイペースで進めることができ，研究資金が欲しければ科研費や外部資金を申し込むとかなりの確率で取れ，楽しい研究･教育の技大生活でした。また，電気系教職員一同で成願寺温泉での忘年会を行なった事も楽しい思い出です。平成16年4月に国立大学法人化，その年の10月23日に中越地震があり，その後，3年間，腰痛に悩まされ，研究もマイペースでは行かなくなりました。その中で，事務の方々，他系の先生方，バス運転手の方々と通勤バス仲間の知り合いができ，楽しい時間帯でした。17年間の勤務を終えようとする中で，これからの大学は難局面を迎えざるをえない状況になるでしょう。今まで来られましたのは，教職員の方々，他大学・企業の方々の応援，研究室の学生諸君の協力と卒業生の来訪があったからだと思います。皆様の今後のご活躍とご発展をお祈りします。

## 定年退職に当たって

経営情報系・教授
大里 有生
ARIO OHSATO

昭和から平成に改元された年の秋，縁あって横浜国立大学から長岡技術科学大学に転任しました。勤続年数は，長岡技術科学大学が21年，横浜国立大学が22年であり，合わせて43年間の大学人生活です。長岡での生活は，激動の時代の日々でしたので，まさに光陰矢の如し，瞬く間に時が過ぎた感があります。本学に来て最初の10年間は，経営／情報系の新学科を創設したい一心で活動してきました。念願叶って経営情報システム工学課程と修士課程・経営情報システム工学専攻が開設されたのは大きな喜びです。その後の10数年間は，専門系としての経営情報系において教育と研究に思う存分専念できました。挑戦と試練の連続ではありましたが，充実した日々を送ることができました。学内外においても，この21年間に多くの貴重な経験を積むことができました。JICA国際協力事業への参画（タイ・パトムワン高専拡充計画，タマサート大学工学部拡充計画），在外研究員としてニューヨーク州立大学滞在，JICA専門家としてタイ駐在，高等教育IT活用推進事業（文部科学省）の推進，e-ラーニング研究実践センターの本学創設，などが心に残る思い出です。また，系長を4年間務め，その間に，大学法人化，中越地震，創立30周年記念事業等を経験しました。誠に思い出深い21年間でした。

長岡技術科学大学が今後も大いに発展し，工科系大学の雄として世界に冠たる高等教育機関に成られんことを期待して止みません。

### 贈る言葉／島田先生へ

## 先生に頂いたプレゼント

長岡工業高等専門学校
電気電子システム工学科 准教授
矢野 昌平
YANO SHOUHEI

「島田研への新配属学生は○○へ集合」1Fの掲示板の小さな張り紙，インターネットは普及しておらず，学生への連絡はもっぱら掲示板で行われている時代。「こんな掲示があったかな?・・・集合時間をすぎている!」あわてて6階まで走り，渡されたのは信号処理分野のテスト問題，もう20年以上も前の話です。それから，学部から博士，そして就職後は研究活動でと，お世話になりました。人との繋がりを大切にされ，そしてすべてのことに几帳面な島田先生は，いい加減な私の行動をいつも正してくださいました。そして，わたしの物事に集中する性格をよく褒めてくださいました。人生の転機には，先生が私の背中を押してくださいました。昔気質の親からは「大学は遊びに行くところ」と言われ，早く就職をと考えていた私に，博士への進学の話をされ，背中を押してくださったから今の私がいます。未熟な私に辛抱強く時に厳しく教えてくださいました。先生には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。修了式の少し前に，笑顔の先生からプレゼントとして渡されたのは，先生と初めて会った日に行ったテスト。青焼印刷の問題の文字はほとんど消えて読めませんが明らかに間違っている私の解答。すてきなプレゼントでした。

### 贈る言葉／大里先生へ

## 大里先生　ありがとうございました

経営情報系・准教授
塩野谷 明
AKIRA SHIONOYA

大里有生先生は1989年（平成元年）10月に，横浜国立大学工学部から長岡技術科学大学計画・経営系（当事）に赴任されました。ご専門はシステム工学，ファジィ工学で，先生の人となりのような柔（軟）らかい工学の日本におけるパイオニアとして，ご活躍されておりました。そして大里先生といえば経営情報系，経営情報系といえば大里先生といっても過言でないほど，いま経営情報系そして経営情報システム工学課程・専攻が技大にあるのは，大里先生のご功績以外の何ものでもないと思います。当時助手であった私の目には今でも，毎日のように根木昭計画経営系長と経営情報系立ち上げの議論を交わしている大里先生の，大学の教育者・研究者として夢を実現しようとする姿が強く焼きついています。その後，設置間もない経営情報系の系長として，若い系，そして若い先生の先頭に立ってリーダーシップを発揮されていたのが，ついこの間のことのように思い出されます。しかしこの間，産みの苦しみゆえに満足な時間が取れず，ご自身の研究がままならなかった歯がゆさは，口に出されなくともどこかに隠し持っていたのではないかと，系の一員としてたいへん申し訳なく思う次第です。

大里先生はその容姿に伺えるとおり，とても定年を迎えるようには思えない若々しさとバイタリティを今でも失っていません。これは1年をとおして，登山やスキー，サイクリングを楽しまれ，長岡での生活を十二分に満喫されて，仕事と心・体のバランスを取られてきたからだと思います。ここに残る我々は，先生のその失われない若々しさを見習い，先生が築かれたこの系をさらに発展させていくことをお約束して，贈る言葉に代えたいと思います。大里先生，本当にありがとうございました。

# 退職にあたって

## 32年間を振り返って

極限エネルギー密度工学研究センター
技術専門職員
**関本 裕治**
YUJI SEKIMOTO

長岡で桜の名所として有名になった技大桜通りの桜の木と構内で大木となった欅やプラタナスは共に昭和55年('80)頃から植栽されたものです。植栽された当時の幹の細さを知る私は何と立派に育ったものかと感動を覚えます。平成の時代と違い，昭和の時代（昭和54年から63年まで）は雪深い年が結構あり，そのため建物全棟の雪降ろしが2回位あったかと記憶しています。構内の木々はこれらの雪害や夏の日照りに耐えて今栄えているわけです。私は昭和54年（'79）4月，28歳で施設課営繕手として採用され，昭和63年9月末まで施設課所属，昭和63年10月から学務課に配置替えさせていただき粒子ビーム工学センター，極限エネルギー密度工学研究センターで勤務させていただきました。仕事の内容としては設備保守，機器，装置の運転を主として自分の能力が発揮できるものと仕事に励んできましたが，センター勤務ではこれに学生実験の補助が毎週加わり，機械科高卒で電気の勉強を常に避けてきた私にとって電気的知識は皆無であり，これを覚えるのにはたいへん苦労しました。

電気系の先生方，特に技術職員の方々より丁寧なご指導をいただきなんとか無事終えることが出来ました。本年3月末で無事定年退職を迎えることとなり，これ全て大学関係者皆様のお陰であるとここに深く感謝を申し上げます。

32年間の技大生活は今振り返るとあっという間に過ぎ去った感じです。桜や欅は見事に成長し，春は花見，夏は木陰をつくり我々を癒してくれていますが自分のことを振り返ると今になって私は32年間何をして来たのだろうと自問することばかりです。最後に長岡技術科学大学が今後，益々大きく発展することを願い，また大学関係者皆様のご健闘とご健康を祈念してやみません。長い間本当にお世話になりました。

## 御礼を申し上げます。

東府局長（文部省技術教育係長）斉藤信義先生（学長事務取扱）と右は小職。
( )は創設時の職

学務部学術情報課 課長
**高橋 俊二**
SHUNJI TAKAHASHI

貴重な誌面を賜り恐縮に存じます。図らずも文科省の登用試験を受けさせて頂き，課長を拝命し，信州大学，群馬大学，富山大学，JAISTと諸国行脚し，長岡技術科学大学で定年となります。いたらぬ私を寛仁大度の御心で蔭日向なく御教導支えてくださった学長，副学長，学部長，病院長，図書館長始め先生方，局長，部長の上司の方，同僚の課長，事務長の皆様方，優秀で心よきスタッフの皆様方，親切な宿舎・生協の方，多くの方々に深く厚く感謝を申し上げます。古人のお言葉に人生根蒂無く飄として陌上の塵の如し分散し風を逐ひて転じ此れ已に常身に非ずと申します。そのとおりでございます。不可思議な御縁で諸国をさまざまに見聞でき，諸賢の御教導・厚誼を賜り有意義で愉しい人生を過ごせました。幸甚で摩訶不思議でした。

さて，今号は私たち老兵の去る号よりも御地で学び育った前途有為な学生諸君の門出でございます。僭越ですが，お祝いを申し上げます。これまでの御苦労が実り学位を修得されました。皆様方の蛍雪の功と共にそれを支えられた御家族の方に衷心より敬意を表します。私ごとで恐縮ですが，諸国行脚の際，母校白山キャンパスでの学友に多くの御支援を頂きました。大学の学友はゼミでもサークルでも出会いは全て青春そのものでございます。御縁あって，越後長岡の地で邂逅されました。是非この御縁をこれからも大切に願います。それらにより技学の灯も燈々無尽となります。最後に，どのキャンパスも美しい百花に溢れておりました。良寛様の詩と共に重ねて御礼を申し上げます。

間庭百花発き　余香此の堂に入る　相対して共に語る無く　春夜夜将に央ならんとす



# GIDAINOKI 技大の樹

［第6回］
## ケヤキ(欅)

長岡技術科学大学の構内で，最も存在感のある樹種は何でしょう。もちろん春には桜が一番ですが，花の無い季節はそれほど意識されません。春の新緑，夏の緑陰，秋の紅葉，そして冬枯れの凛とした立ち姿で構内を彩り，四季を通して確かな存在感を見せるのがケヤキです。福利棟前の憩いの広場を始め，学内の至る所に，大小取り混ぜ数多く植えられています。ケヤキは，真っすぐ立った樹幹から枝分かれを繰り返し，多くの枝が空を目指す美しい樹姿を示し，高さ30mに及ぶ大樹となります。街路樹や庭園木として多く用いられ，磨くと光沢を示す美しい木目を持った木材も，家具や建具に好んで使われます。

ケヤキは長岡市の樹にも指定されており，市内各所に街路樹として植えられている他，樹齢800年の金峯神社の御神木（蔵王の大欅）を始め，栖吉神社の御神木（栖吉の大欅），古正寺の諏訪神社の大欅，福島の貞信尼の草庵近くの大欅と，4本の古木が市の天然記念物に指定されています。

降り積もった雪が，大木の根元では，樹幹の受けた陽の光により，どこより早く樹を取り巻くように融けていき，その様子は根開きと呼ばれます。根開きが見られるようになると，春はもう，すぐそこです。

トピックス
# TOPICS

## 新着ニュース

| | |
|---|---|
| 2011.2.22 | タイ・パトムワン工科大学工学部長が来学されました。 |
| 2011.2.7 | 中国駐新潟総領事が来学されました。 |
| 2011.1.31 | 近隣高専校長と学長との懇談会を開催しました。 |
| 2011.1.25 | 韓国・ウルサン大学国際交流院長が来学されました。 |
| 2011.1.24 | ハノイ工科大学との共同研究に関する合意文書を締結しました。 |

ハノイ工科大学との調印式後の記念撮影